



国分寺市委託事業
令和元年度
地域福祉コーディネーター
活動報告書



目 次

□ はじめに	2
□ 1.事業概要	3
□ 2.取り組み体制・地区データ	4
□ 3.新規相談	6
□ 4.地域福祉コーディネーター行動記録の統計と分析	14
□ 5.取り組み事例	17
□ 6.地域福祉コーディネーターの PR（周知・広報啓発）	19
□ 7.会議・イベント参加	19
□ 8.研修等の受講	19
□ 9.支え合う地域づくり学習会の実施	20
□ 10. スーパービジョンを受けて	22
□ 11.課題と今後の展望	26
□ 12.総評（令和元年度の活動成果及び今後の活動に向けて）	27

はじめに

平成から令和へと新しい元号へ変化のあった昨年度、国分寺市社会福祉協議会でも新たに「地域福祉コーディネーター事業」を国分寺市より受託し、まちづくり支援係に配置されました。

ここ十数年、少子高齢化や核家族化、地域のつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く環境が大きく変化し、福祉ニーズも多様化・複雑化してきました。当会では、第2期地域福祉活動計画（平成19年～）で提起された、新たな地域のコミュニティづくり「こくぶんじコミュニティネットワーク」を略して『ここねっと』と呼び、住民主体の活動を進めて参りました。多様化した地域の課題に対応し、そして、それぞれの地域の特性に応じ『ここねっと』を通じてすすめてきた当会の活動は、新たに受託した地域福祉コーディネーター業務の基盤となっていると思います。

そこで、その強みを十分に生かしつつ、より多くの市民や関係機関の皆さんに地域福祉コーディネーターを知っていただくため、「気づく」「つなぐ」「つくる」の3つのキーワードを掲げ、地域に出向いていくことを中心に取り組みました。

昨年は、初年度ということもあり、地域支援を中心に行っておりましたが、チラシや市報等の広報を見て、個別の相談も入ってきました。どちらの相談・支援にしても、すぐに解決するわけではありませんので、近隣の市民や関係機関に関わっていただきながら、解決の糸口を一緒に探しています。

また、先駆的に事業を展開している立川市社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターに協力していただき、市民向け学習会を東西1か所ずつ開催いたしました。

このように1年を通じて様々な活動を行なっておりますが、コーディネーターの日常の活動はなかなかわかりにくいもので、相談対応やどのような動きで仕組みづくりの支援をしているのか等を、目で見てわかるようデータや事例などで可視化したものが、この報告書になります。

地域福祉コーディネーターの圏域は、地域包括支援センターの6圏域に合わせ、2名のコーディネーターが東西3圏域ずつを担当しております。担当圏域が広いため、思うように足を運べないこともあります。引き続き、民生委員・児童委員や自治会・町内会関係の皆さん、地域包括支援センターに配属された第2層生活支援コーディネーター等の関係機関の皆さん、そして市民の皆さんとの連携の輪を広げ、ともに考え解決できる「地域のネットワークづくり」に取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、年度末に開催が中止となった報告会の講師として依頼しておりました、武蔵野大学教授の熊田博喜先生には、地域福祉コーディネーターのスーパービジョンを実施していただき、多大なるご指導・ご尽力をいただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

令和2年9月

社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会
まちづくり支援係 係長 大内 陽子

1.事業概要

(1) 地域福祉コーディネーターとは

少子高齢化や核家族化、地域のつながりの希薄化など、地域社会を取り巻く環境の変化による福祉ニーズの多様化、複雑化へ対応するために、令和元年度から国分寺市の委託により配置されました。どこに相談したらよいかわからない困りごとや、気になること、地域の様々な相談に幅広く対応します。また、地域に出向き、皆さんと協働して問題解決に向けた取り組みを支援します。新たな地域活動の立ち上げや運営支援も行います。

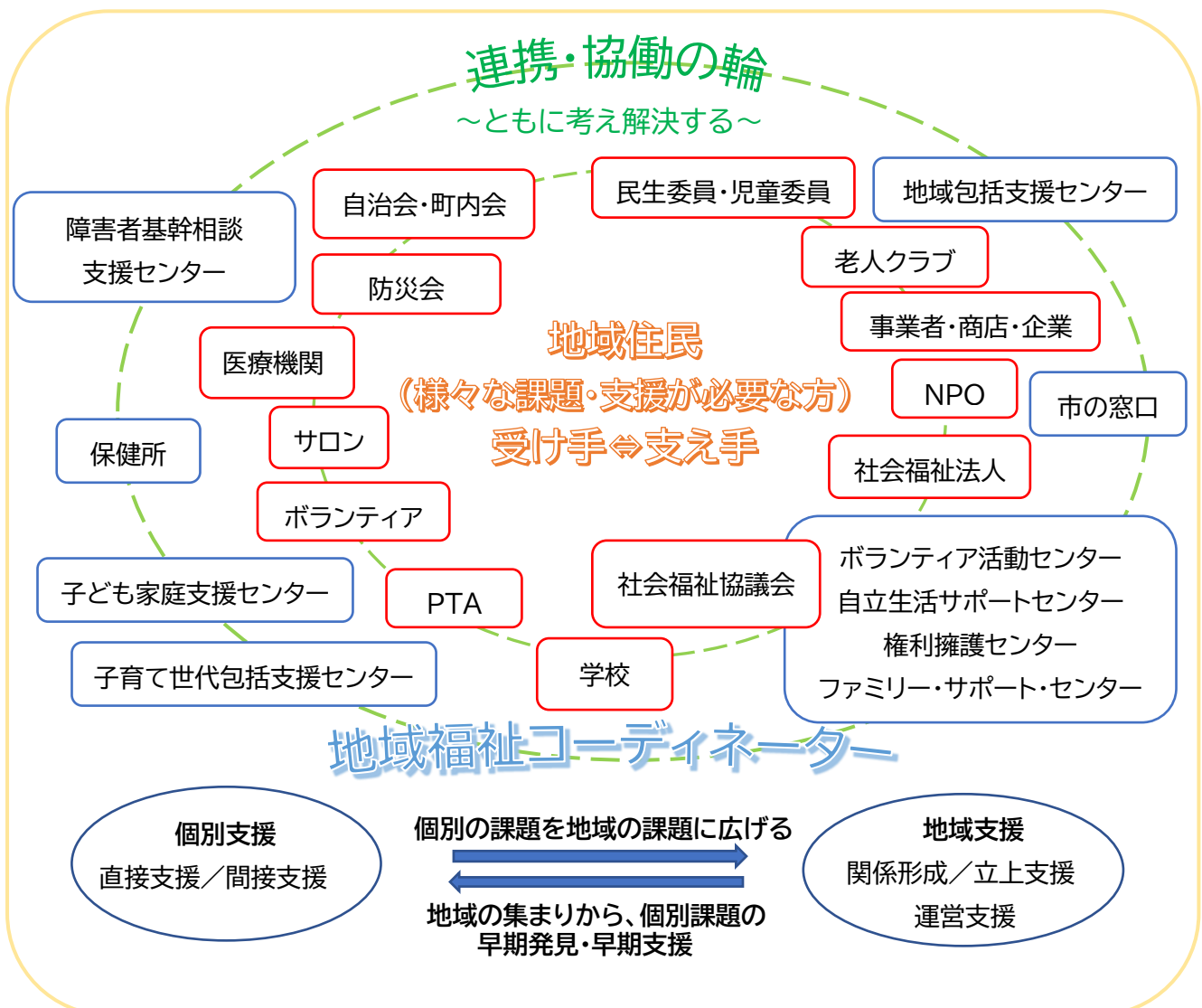
(2) 地域福祉コーディネーターの役割

～『気づく』『つなぐ』『つくる』をキーワードに支援～

気づく：積極的に地域へ出向き、地域のニーズを把握していきます。

つなぐ：支援が必要な方を専門機関につなげたり、地域の皆さんや関係機関の方々とのネットワークを強くしていきます。

つくる：地域に必要な活動や取り組み、仕組みづくりなどを、皆さんと一緒に考えていきます。



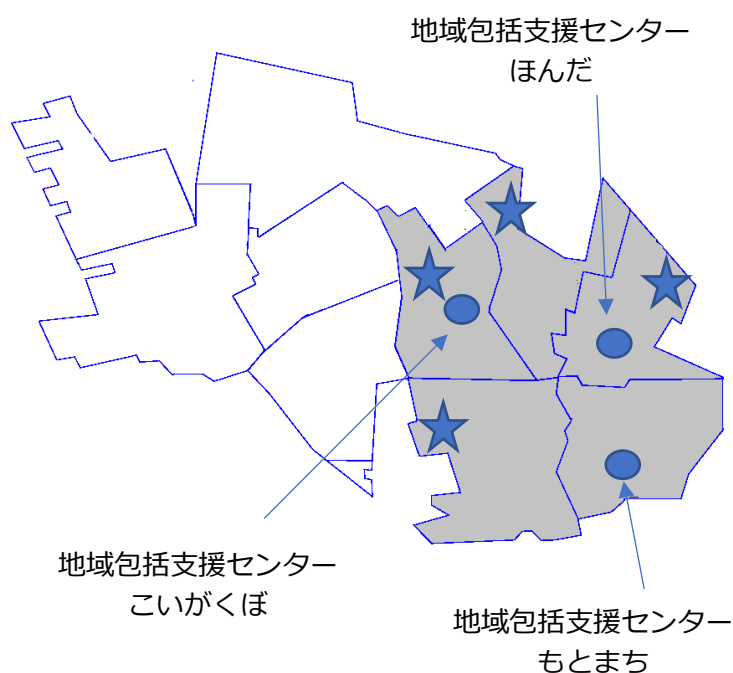
2.取り組み体制・地区データ

【体制】

平成 31 年度より 2 名を配置。

市内 6 か所の地域包括支援センターのエリアを東西 2 区域に分け、2 人の地域福祉コーディネーターがそれぞれの区域を担当。

《区域データ》



東区域

▶地域包括支援センターエリア
もとまち・こいがくぼ・ほんだ

▶町 名
東元町、西元町、南町、泉町、
西恋ヶ窪、東戸倉、本町、本多、
東恋ヶ窪

★ 井戸端会議実施場所

面積	5.56 km ²	自治会・町内会	65 団体
総人口	70,672 人	防災会	5 地区
高齢者人口	14,541 人	小学校・中学校	小 : 5 校 中 : 2 校
高齢化率	20.6%	幼稚園・保育施設	幼 : 1 保 : 31
老人クラブ	17 団体	井戸端会議	4 か所

(令和 2 年 4 月 1 日現在)

西区域

▶地域包括支援センターエリア

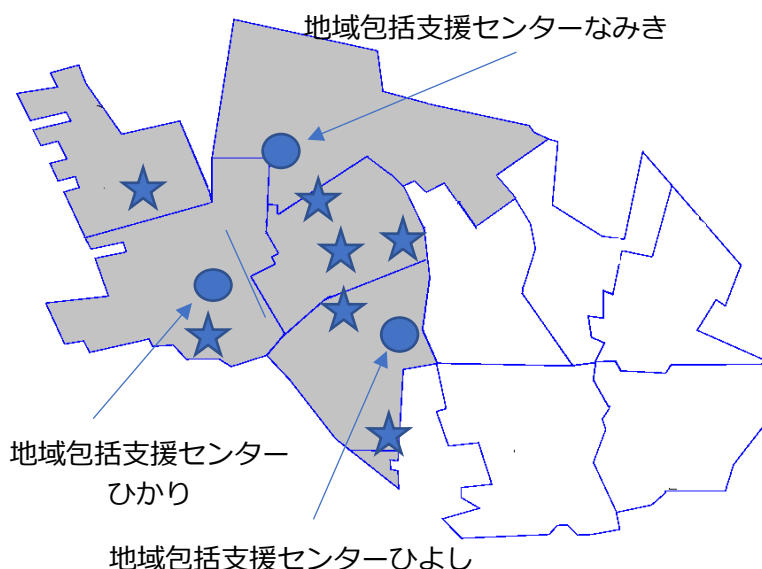
ひよし・ひかり・なみき

▶町 名

戸倉、日吉町、内藤、光町、高木町、
西町、富士本、新町、並木町、北町



井戸端会議実施場所



面積	5.91 km ²	自治会・町内会	59 団体
総人口	55,209 人	防災会	10 地区
高齢者人口	12,963 人	小学校・中学校	小：5 校 中：3 校
高齢化率	23.5%	幼稚園・保育施設	幼：3 保：16
老人クラブ	10 団体	井戸端会議	7 か所

(令和 2 年 4 月 1 日現在)

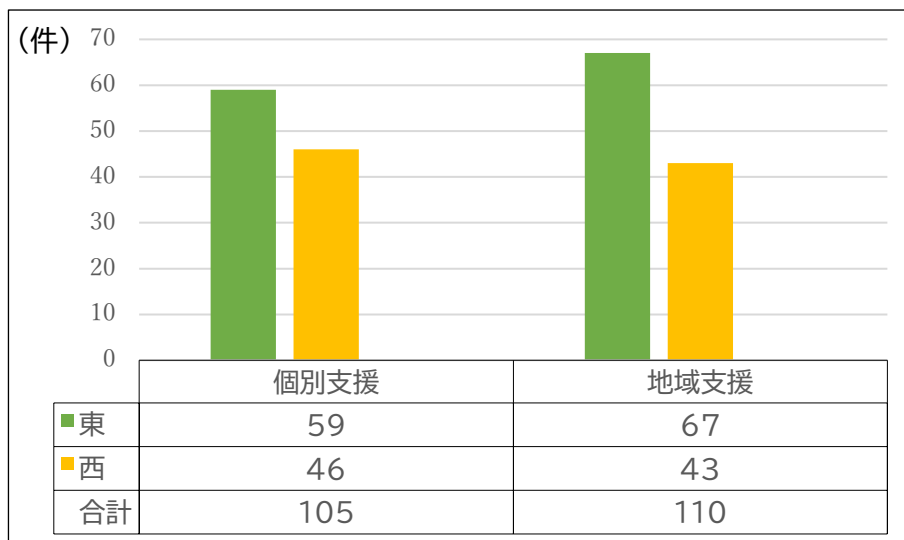
＜井戸端会議について＞

井戸端会議の開催場所を地区データに上げたのは、今年度、地域福祉コーディネーターが掲げた『気づく』『つなぐ』『つくる』のキーワードをもとに活動する際、地域住民の声や情報共有の場として貴重な場所が、「井戸端会議」と感じたからである。現在 11 か所で実施されているが、地域福祉コーディネーターが出向くことができたのは、5 か所にとどまっている。原因の一つとしては、月に 1 回の実施で日時が重なっていることである。参加できない地区については、自治会・町内会や防災会等の会合にできるだけ地区担当の地域福祉コーディネーターが出向き、地域住民との関係を構築していきたい。

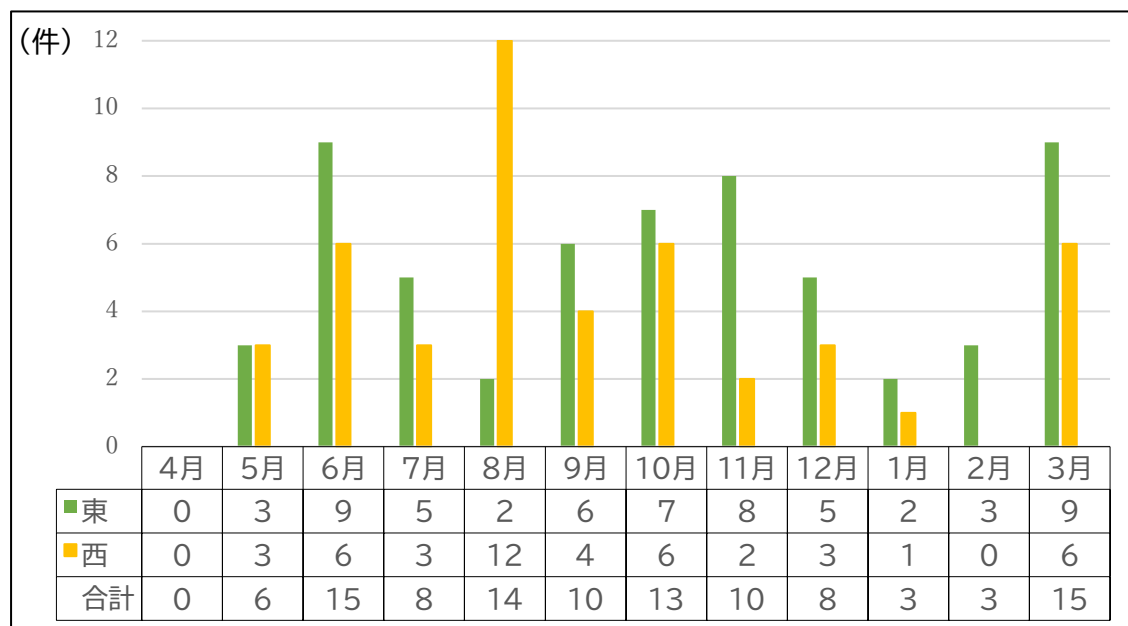
※井戸端会議…『むかしの井戸』では、月 1 回・1 時間程度、井戸周辺に居住する住民や市民防災推進委員が中心となって地域の情報交換・共有をする『井戸端会議』を開催している。

3.新規相談

(1) 相談件数



各月の個別支援件数

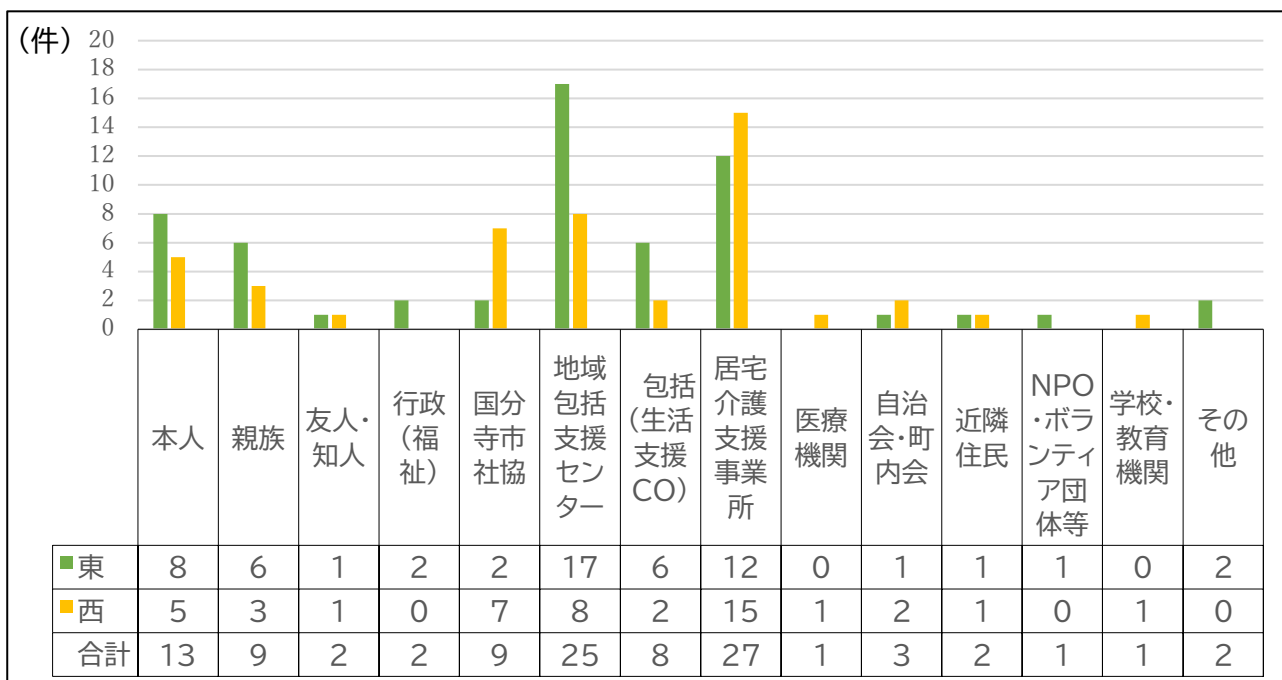


<分析>

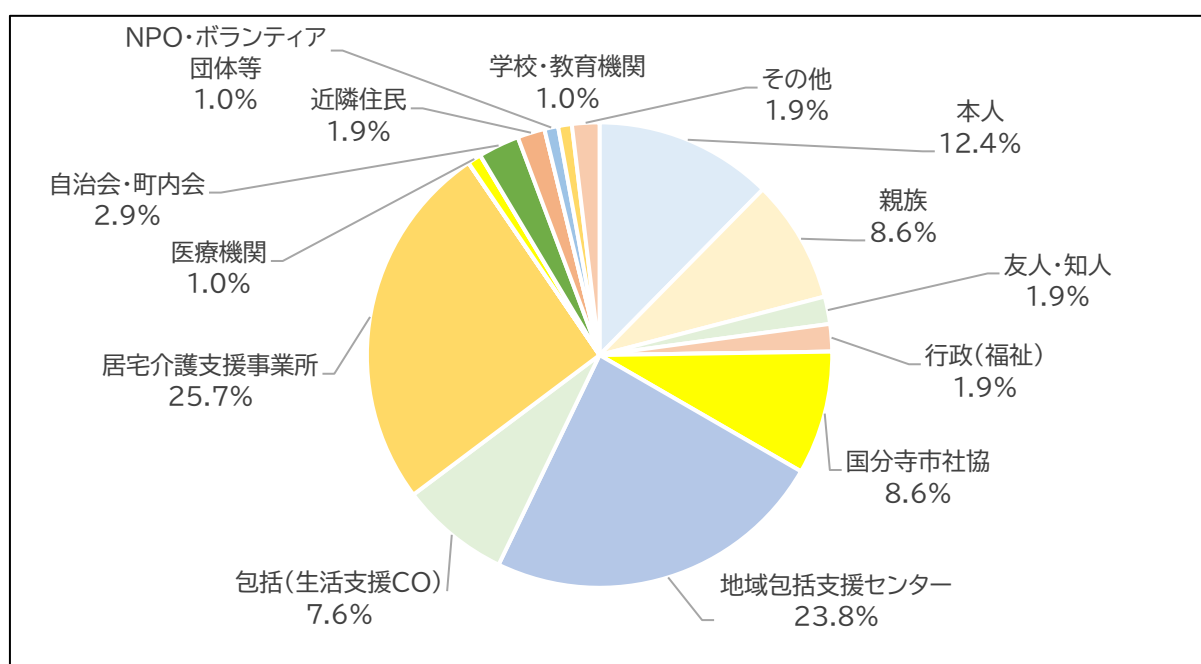
新規事業のため比較は次年度からとなるが、「どこに相談をしたらよいかわからないことや困りごとがありましたらまずはお相談ください」といったフレーズでPRをしたことから、個別支援・地域支援それぞれ東西合わせ年間に100件以上の相談件数となった。

(2) 個別支援

○相談経路



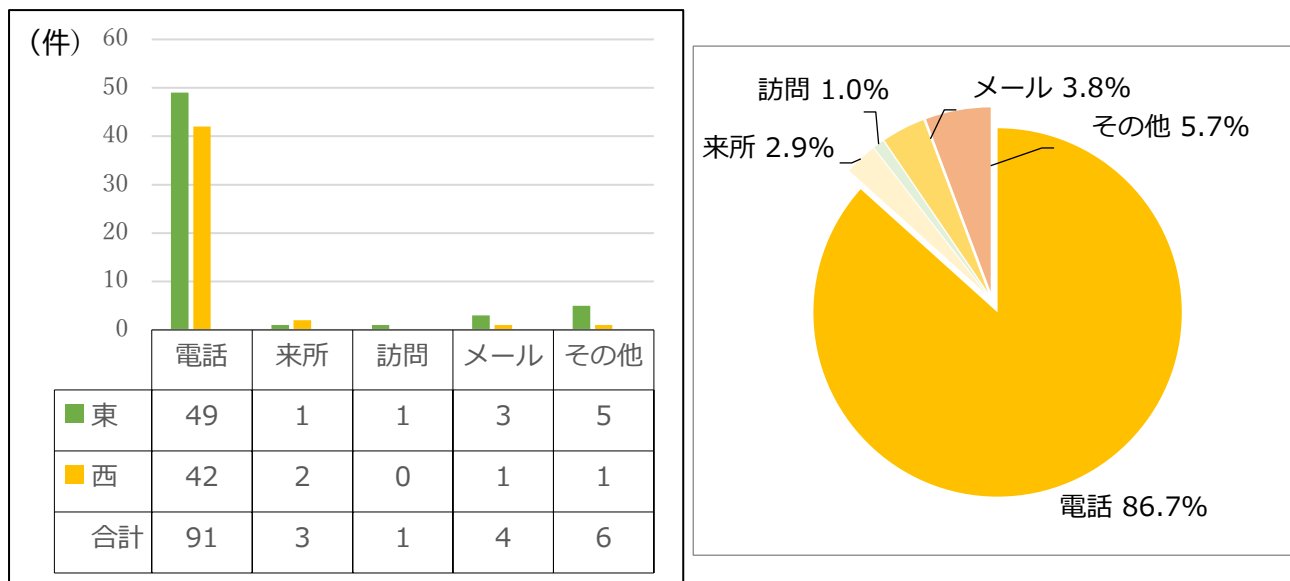
※社協:社会福祉協議会(以下同じ)／包括(生活支援 CO):地域包括支援センター 第2層生活支援コーディネーター(以下同じ)



※各項目別割合は、小数点以下第二位を四捨五入したものであり、比率の合計が100とならない場合がある(以下同じ)。

個別支援での相談経路として大半を占めているのが、「地域包括支援センター」と「居宅介護支援事業所」となっており、次いで本人等からの相談が多いことから、地域住民や関係機関に一定の周知が図られていると考えられる。今後、複合的な課題を抱える世帯の早期把握につなげるには、「地域の身近な相談相手」としての周知を引き続き行い、アウトリーチによるアプローチの機能を強化するとともに、他分野との相互に連携した相談支援体制をつくることが求められる。

○相談手段（方法）



<分析>

東西合わせると、全体の9割近くが電話での相談となっている。関係機関からの相談や、市報やチラシを見て「まずは電話で問い合わせしてみた」という相談が大半を占めていた。

○主な相談内容

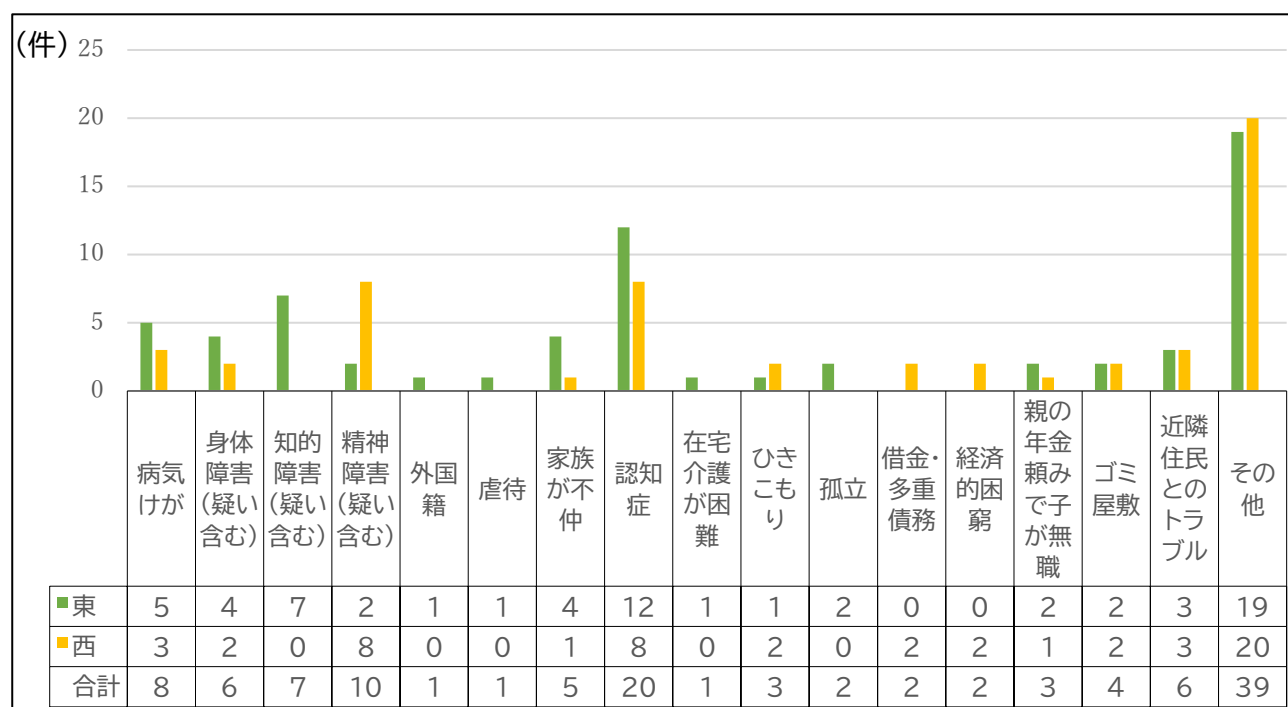
【本人・家族から】

- ・都営住宅の高齢化に伴う課題について。
- ・発達障害のある子どもの相談場所について。
- ・ひきこもりの子どものことについて。

【地域・関係機関から】

- ・親が亡くなった後の家族支援について。
- ・近隣の植栽での困りごとについて。
- ・近隣のゴミ問題やネズミの発生について。
- ・ペットやゴミの片付けについて。
- ・地域にいるひきこもりの方について。
- ・近隣にハクビシンやネズミが発生して困っていることについて。
- ・野良猫の繁殖場所になっている家があり、衛生的に不安なことについて。
- ・子ども食堂等のイベントを開きたいがどのようにしたらいいか。また、子ども達の貧困の現状等について。

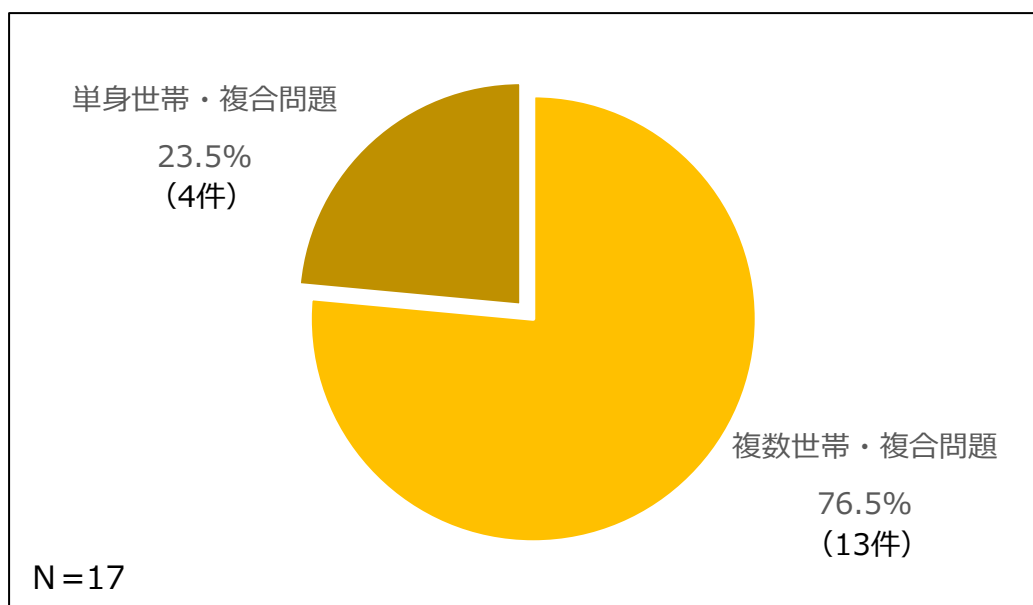
○相談内容及び背景



<分析>

相談内容及び背景の東西の合計では、多い順から①「認知症」20件、②「精神障害（疑い含む）」10件となっている。課題を複数抱えている対象者で最も多いのは2項目だが、5項目に当てはまる世帯もあった。また、件数としては多くはないが、「ひきこもり」3件、「ゴミ屋敷」4件といった、制度の狭間の課題を抱える世帯の相談も受けている。件数としては現れていないが、都営住宅の高齢化に伴う課題などが潜在化している。その他の内訳は、安否確認や情報提供、寄付の相談などである。

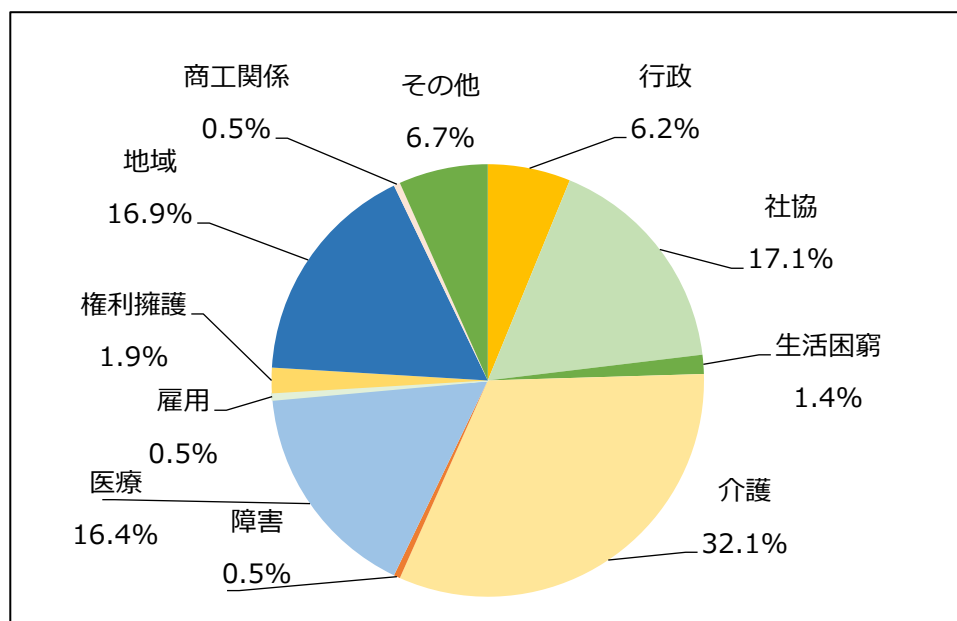
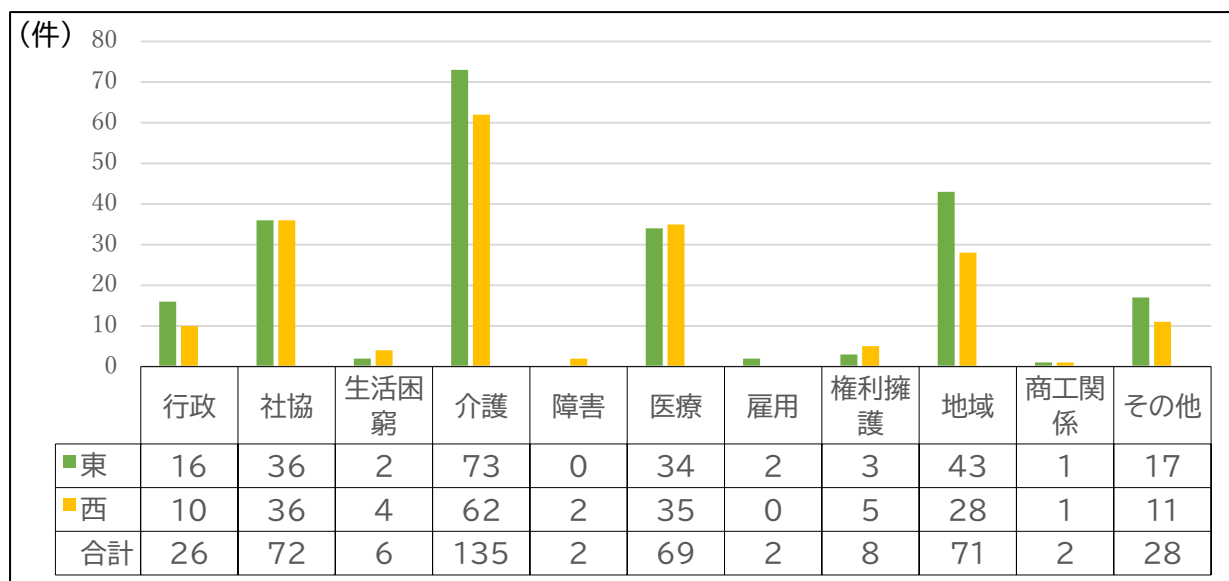
○複合的な課題を抱える個人・世帯の割合



<分析>

新規個別支援 105 件中 17 件が複合的な課題を抱えた相談であった。課題内容は、「親の年金頼みで子が無職」・「親子共に知的障害（疑い含む）がある世帯」・「精神疾患のある親子」などである。親の支援で関わっている地域包括支援センターからの相談が多く、親の支援が途切れた時の子の支援をどの機関がどのようにしていくのかという課題がある。潜在化している複合的な課題を抱えている世帯に気づくためには、各分野との相互の連携した相談支援体制をつくることが求められている。

○個別の関係機関連絡・連携先



<分析>

介護（地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・介護サービス事業所）分野が3割以上を占めている。対象者の中には、認知症が進行している方や、精神疾患を持っている方も多く、社会福祉協議会（以下「社協」という。）の他部署との連携も不可欠となっている。そのため、地域福祉係（権利擁護担当と自立支援担当）との連携会議を行い、いつでも相談し合える体制づくりを図った。

(3)地域支援

○主な相談内容

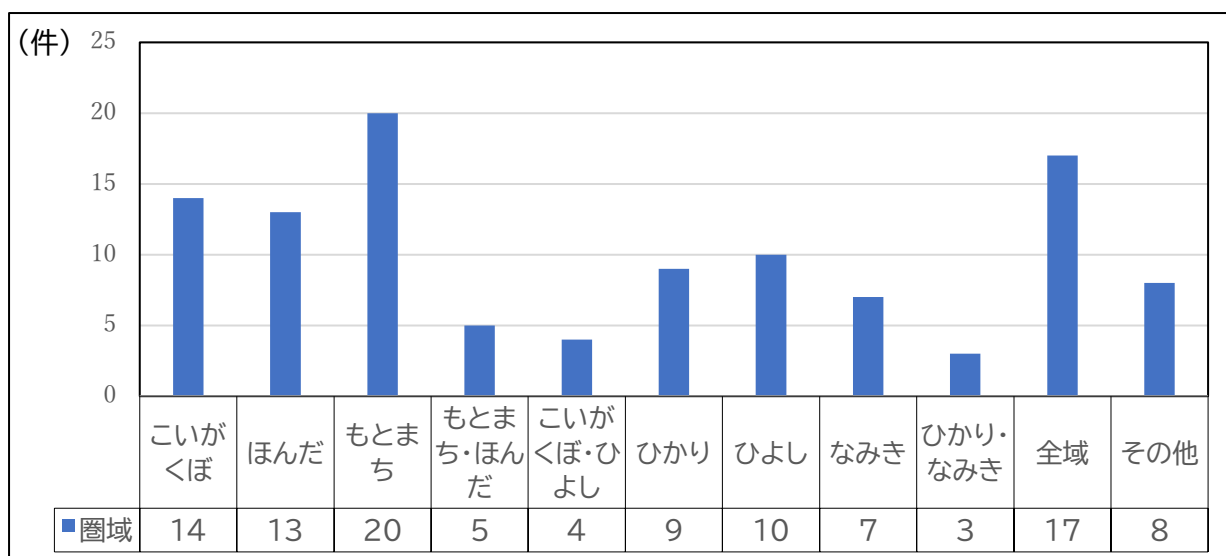
【地域住民から】

- ・中学生の居場所をつくりたい。
- ・居場所づくりの話し合いに一緒に入ってほしい。
- ・神社のフリースペースの活用について相談したい。
- ・自治会内の見守り強化のため、継続的に関わってほしい。
- ・自治会も防災会もないが、あると良いメリットを知りたい。
- ・多機能な居場所をつくりたい。

【関係機関・福祉施設から】

- ・放課後子どもプランの高校生ボランティアについて相談したい。
- ・集いの場「暮らしを拓げる 10 の筋力トレーニング」の活動場所について相談したい。
- ・「神社でつくるちいきのわ」のような集まりをしたい。
- ・障害者施設の利用者による社会貢献活動をしたい。
- ・地域と関わりを持ちたいと思っている団体と今後について話し合いをするので、一緒に参加をしてほしい。
- ・子どもの通学路について話し合う場を設けてほしい。
- ・子どもの見守りをしている方と学校をつなぐ連絡手段がほしい。
- ・施設内の空き部屋を活用したい。
- ・実施するイベントの内容を検討するため、意見を聞きたい。
- ・居場所づくりについて一緒に考えてほしい。

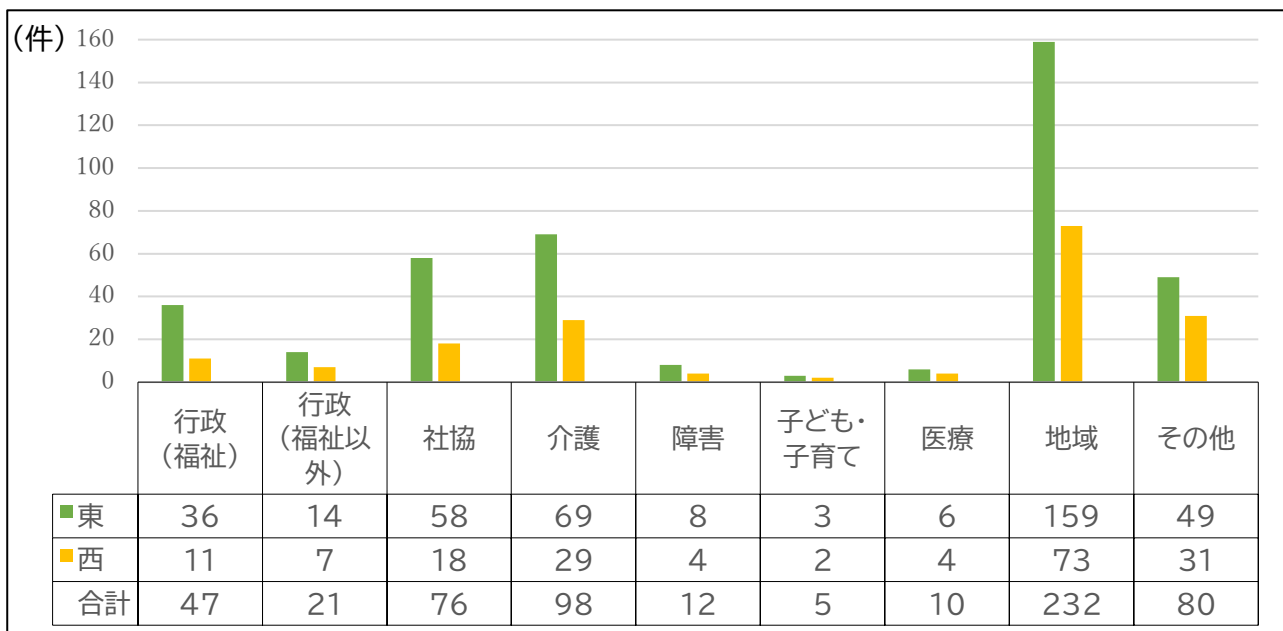
○相談の対象地域圏域区分（包括別）



<分析>

地域支援では、第2層生活支援コーディネーターとの関わりが表れている。もとまち地域は、地域活動を進める中で共有することが多く、数値にも反映された。他地域の第2層生活支援コーディネーターに関しても小学校区の懇談会や、グループワークの協力、居場所づくりの話し合いへの参加など、情報共有をしながらネットワークの構築を行った。

○連携先



<分析>

連携先で一番関わりが多いのは、東西区域ともに「地域」である。内訳は地域住民、自治会・町内会、民生委員・児童委員、NPO・ボランティア団体、サロンとなっている。中でも地域住民との関わりが一番多く、東部区域では、本町・南町八幡神社を利用した居場所づくりでの関わり、西部区域では、自治会活動、懇談の場や井戸端会議などである。しかし、地域活動の中心となっている方の年齢層が高くなっており、今後、若い年齢層をどう取り込んでいくかということが課題である。社協の独自事業である「地域支え合い活動（腕章活動）」では、地域住民との関わりも多く、各小学校との連携を図ることもできた。2校では懇談会の実施、5校とは小学校やPTAが主体の懇談会の場に参加することができた。

〈生活支援コーディネーターについて〉

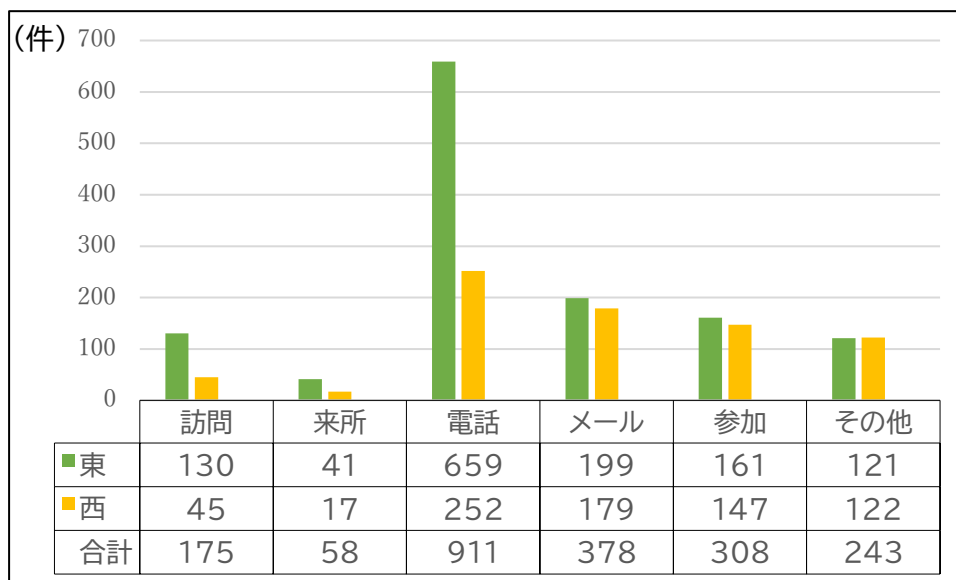
日常生活で支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を続けられるように、資源開発やネットワーク構築、ニーズと取組のマッチング等に取り組む専門職です。国分寺市では活動圏域を第1層と第2層に分け、地域の状況に応じた活動を展開しています。

第1層生活支援コーディネーターは社協に1名配置しており、市内全域を対象とした生活支援・介護予防サービス提供体制の構築機能を担います。また、第2層生活支援コーディネーターや地域福祉コーディネーター、関係機関等と連携しネットワークの充実・強化を図ります。

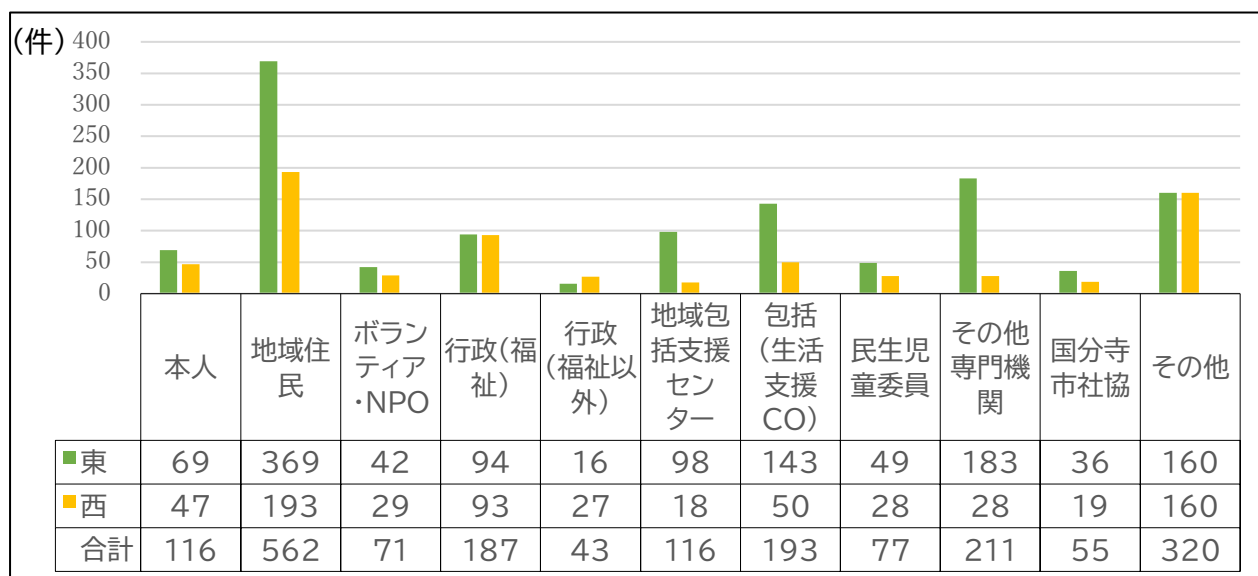
第2層生活支援コーディネーターは、高齢者見守りコーディネーターとして、市内6か所にある地域包括支援センターに各1名ずつ配置され、個別支援のほか地域資源の把握、開発等に取り組んでいます。

4. 地域福祉コーディネーター行動記録の統計と分析

(1) 行動区分



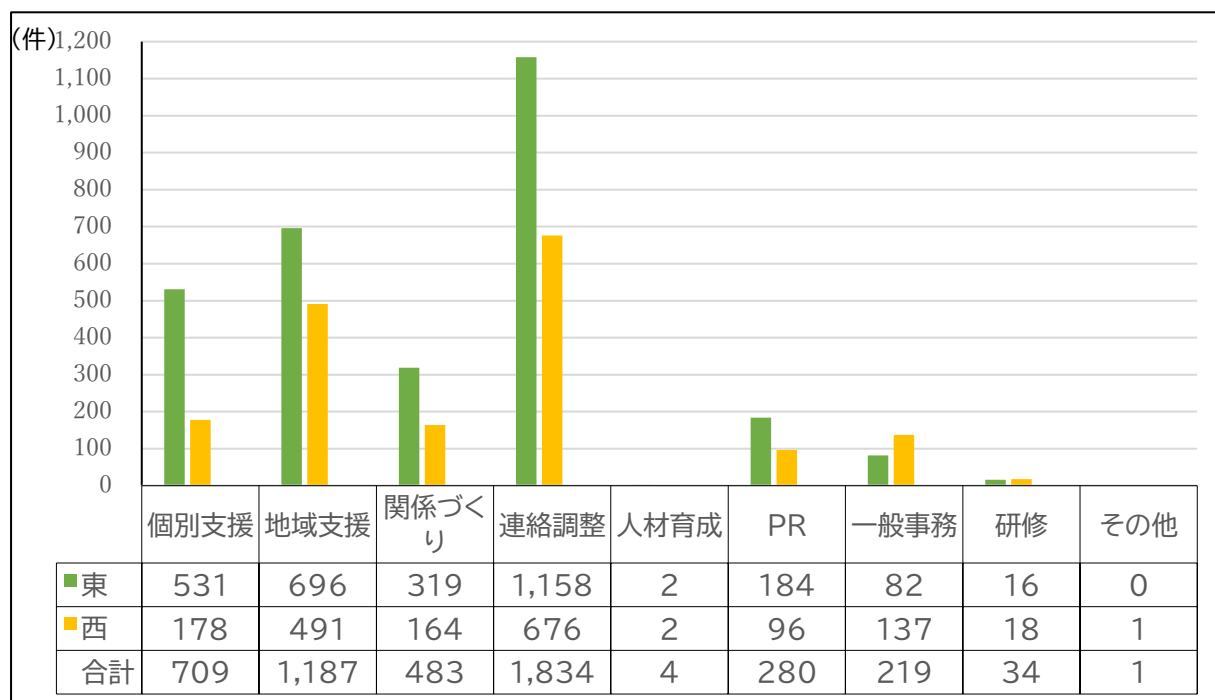
(2) 相手方区分



(3)活動内容

【活動内容の分類】

項 目	内 容
個別支援	個別ケースに関する相談対応、当事者への支援
地域支援	ネットワーク形成、資源開発、各種活動・団体の設立・運営などに関する相談対応・支援
関係づくり	関係づくりのための訪問、会議・イベント参加
連絡調整	当事者や関係機関との連絡調整・情報提供・情報共有
人材育成	地域福祉活動への関心・参加を促す働きかけ、研修会・講座などの企画・開催
PR	地域福祉コーディネーターや社協のPR
一般事務	地域福祉コーディネーターに関わる事務作業
研修	研修、スーパービジョン、視察
その他	市外の活動、その他



<分析>

個別支援における支援関係機関へのつなぎ、地域支援における地域住民などとの調整により、東西区域共に連絡調整が最多となった。東西区域共に「ゴミ問題」の動きがあり、連絡調整・関係づくりをしながら対応したことも表に現れている。地域支援は初年度のため、地域住民や関係機関との関係づくり及びPRに力を入れ実施した。

東部区域の、個別支援・地域支援の件数が共に多いのは、個別支援では、頻回にやりとりを必要とするケースが多かったことであり、地域支援では定期的な地域会議への参加、継続的な居場所づくりの支援によるものである。

西部区域では、個別支援・地域支援共に東部区域に比べ件数が少ないのは、子どもの見守り懇談会の開催や井戸端会議の参加、居場所づくりの話し合いなど、地域支援を進めていく初期段階であったということが要因と考えられる。

5.取り組み事例

▶自治会の支援

社協が行っている『地域支え合い活動』の腕章を利用し、自治会独自の見守り活動を実施することになった。活動時に何かあった場合の連絡先とポイントをまとめた「見守り活動一覧」の作成支援や、その場で上がった疑問点や問題点などを話し合う場として月1回の定期連絡会へ参加。役員会では、地域福祉コーディネーターのPRと腕章活動について話をした。

- ・日程：4月16日(火)、5月21日(火)、6月18日(火)、
7月16日(火)、9月12日(木)、9月17日(火)、
10月15日(火)、12月17日(火)、令和2年1月21日(火)



▶「第六小学校区見守り懇談会」開催

自動車が暴走し園児が巻き込まれる事故などが多発していた時期に、この地区の道路でも同様の事故が起こりうるであろうと心配した地域の方や、PTAの方などから問い合わせを受け、腕章活動者や学校、自治会・町内会、民生委員・児童委員の方々との懇談会を実施した。

開催日時：9月21日（土）午前10時～11時半

場 所：並木公民館

参加人数：17名（スタッフ含む）



▶「第二小学校区見守り懇談会」開催

昨年度参加した PTA や見守り活動をしている各団体から、お互いに現状を知っていくために年 1 回は集まりを持っていきたいという意見が上がり、学校や自治会長も同じ意見だったことから実施をした。同時期に「高齢者の活動場所をつくりたい」と第 2 層生活支援コーディネーターから話があり、懇談会のグループワークに協力していただいた。懇談会では 2 グループに分かれ『登下校の見守り』で『工夫した点・難しい点』を話し合い、その中から『災害時の連絡網』と『自宅前のできる見守り』の 2 つのキーワードに絞り、さらに話し合いをすすめた。『災害時の連絡網』については、災害時や突然の休校のお知らせなどを、PTA が管理しているスクール連絡網の中に『地域』として組み込むことができるか検討していくことになった。『自宅でできる見守り』については、第 2 層生活支援コーディネーターと共に高齢者の活動場所として声をかけ進めることになった。



開催日時：10 月 11 日（金）午前 10 時半～12 時

場 所：国分寺市立第二小学校

参加人数：21 名（スタッフ含む）

▶「冬休みだよ！ボラ Base」（書き初め）

子ども達の居場所づくりの一環として開催。小学 3 年生～6 年生を対象に、冬休みの書き初め練習を行う目的で実施をした。書き初めの指導は、もとまち地域の書道会の方々にご協力をいただいた。

開 催 日：12 月 25 日（水）、26 日（木）、27 日（金）

場 所：ボランティア活動センターこくぶんじ 2 階会議室

参加人数：29 名（3 日間）



6.地域福祉コーディネーターのPR（周知・広報啓発）

- ▶国分寺市社会福祉だより「ふくし」
（5月15日号、9月15日号、2月15日号掲載）
- ▶寄稿 ニュースレターNo.6（発行元：国分寺市障害者地域自立支援協議会）
- ▶名刺サイズのPRカード作成・配布（イベント 等）
- ▶チラシ作成・配布（公共機関・施設、関係団体、イベント・主催事業、地域の店舗・個人 等）
 - ・地域福祉コーディネーター事業紹介 計4,000部
 - ・『気づく』『つなぐ』『つくる』 支え合う地域づくり学習会 計6,000部
 - ・令和元年度地域福祉コーディネーター活動報告&講演会 計3,500部
- ▶ボランティア活動センターこくぶんじ HP に掲載
- ▶ブログで活動の紹介



7.会議・イベント参加

- ▶市や関係機関への事業紹介・会議参加 44回
- ※詳細は「社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会 平成31年度事業報告書」参照。
- ▶市地域共生推進課との定例会議 月1回程度 全10回開催
（4月19日、5月14日、6月26日、7月19日、7月31日、9月3日、9月17日、10月4日、12月25日、令和2年2月3日）
- ▶地域活動への参加 81回
- ※詳細は「社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会 平成31年度事業報告書」参照。
社協が展開している事業や地域で行われている行事等との連携を図りながら、地域福祉コーディネーターとして地域の情報収集や情報共有に努めた。

8.研修等の受講

- ▶研修等の受講 ※詳細は「社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会 平成31年度事業報告書」参照。
- ▶「スーパービジョン（助言・指導）」実施 ※詳細はP22～に記載

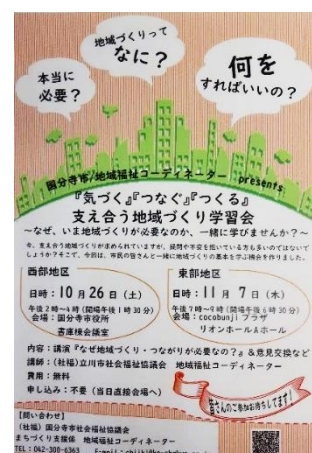
9. 支え合う地域づくり学習会の実施

国分寺市/地域福祉コーディネーター presents

『気づく』『つなぐ』『つくる』 支え合う地域づくり学習会
～なぜ、いま地域づくりが必要なのか、一緒に学びませんか？～

現在、支え合える地域づくりが求められている中で、一方では『地域づくりって何？』『本当に必要なの？』『大切なのはわかるけど自分が何をすれば良いの？』など疑問や不安を抱いている人が多いと感じ、『地域づくりの必要性』や『つながりができることの良さ』など地域づくりの基本の『き』を学ぶことを目的とし実施した。

	西部地区	東部地区
日 時	10月26日(土) 午後2時～4時	11月7日(木) 午後7時～9時
会 場	国分寺市役所 書庫棟会議室	cocobunji プラザ リオンホール Aホール
参加者 (スタッフ含む)	41名	48名



1 講演：『気づく』『つなぐ』『つくる』支え合う地域づくり学習会 ～立川市における取り組み～

講師

西部地区：立川市社会福祉協議会 地域活動推進課地域づくり係
地域福祉コーディネーター 小林 理哉 氏



東部地区：立川市社会福祉協議会 地域活動推進課地域づくり係
地域福祉コーディネーター 田口 美幸 氏



2 グループワーク

『参加したい場』『参加したくない場』について 20 個以上を 8 分間であげ、最終的にはなぜ参加したくないのか、どのように工夫すれば参加したいイベントに変わるのか、各グループごとに話し合いをした。

西部地区

○参加したくない場所（施設）

- ・ 出入り制限があるところ
- ・ 交通の便が悪い場所
- ・ トイレが古い・臭いところ

○工夫して参加したい場所にするには…

- ・ 自由に出入りができる
- ・ 予約をしなくてもよい
- ・ 拘束時間があっても、『時間がなかったらご相談ください』の一言があれば検討
- ・ バスが通るようになったり、タクシーチケットや送迎がある
- ・ シチュエーション
⇒ 保育付き、美味しいものが食べられる
- ・ トイレの改修
- ・ 子どものおむつ替えスペースの設置

など



東部地区

○参加したくない場所（施設）

- ・ 臭い・暗い会場
- ・ 地元すぎるイベント
- ・ 夜遅いイベント

○工夫して参加したい場所にするには…

- ・ 苦情を出す
- ・ ハード面の改善
- ・ その場を生かした内容（例えば肝試しなど）
- ・ 子どものイベントをやることで、大人もついてくる
- ・ スポーツ系のイベント（運動会も含む）
- ・ 広報（PR）は大切
- ・ 楽しい話題・メンバー
- ・ 保育
- ・ 無料

など



▷まとめ

今回の学習会では、他市の活動状況や地域とコーディネーターとの関わり、役割を知ることができ、国分寺市の地域福祉コーディネーターとして、今後の活動の進め方のヒントを得ることができた。グループワークでは、地域の課題を共有する方法として、参加者が意見を出しやすくなるようにゲーム的要素を取り入れた。課題上げでは、課題が出やすいように、「参加したくない場」の原因を上げ、このように改善をすると「参加したい場」に変わるかもしれないと考えてもらい、それが「この地域の課題」とすると、なぜこの課題があるかを皆で原因追究をしていくことで、「このようにしたら参加したくなるね」という課題解決につながるシミュレーションとなったのではないかと感じた。

今後、地域の懇談の場でもこのような場を設けていくことで、潜在化された課題が見え、更に解決していくためには、地域の繋がり大切さや協働の輪が必要だということを改めて感じる事ができた時間だった。

10.スーパービジョンを受けて

3月24日に実施を予定していた、「令和元年度地域福祉コーディネーター活動報告＆講演会」が、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い中止となったため、講師依頼していた武蔵野大学熊田博喜教授によるスーパービジョンを、地域福祉コーディネーターが受け、次年度の活動につなげる場となった。ここでは、助言・指導を受けながら、対応を進めた事例を紹介する。

※スーパービジョンとは、対人援助職者（スーパーバイザー）が指導者（スーパーバイザー）から教育を受ける過程である。指導者が援助者と定期的に面接を行い、継続的な訓練を通じて専門的スキルを向上させることを目的としている。（フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』参照）

▷事例1 ゴミ問題（近隣トラブル）

① 相談内容

「敷地内に物や紙類が山のように積み重なってネズミの巣もあり悪臭がする家がある」「煙草のポイ捨てによる火事の心配もあり困っている」「敷地内の木々が道路に張り出し、通行する人が怪我をすることもある」「ハクビシンや、ネズミが近隣の敷地でも出るので、体調被害も心配」「敷地内が野良猫の繁殖場所になっており、不衛生な家がある」「夏の時期には、スズメバチの巣ができ、近隣には小さい子どももいるため危険」など、様々な機関に問い合わせや相談をしたが、なかなか解決策が見つからず困っているという相談を受けた。

② これまでの対応

□対象者へのアプローチを開始。

- ・アウトリーチ（訪問し、不在の場合は手紙を置いてくる）
→対象者と会うことができた事例もあるが、多くは関係構築中である。
- ・近隣の方から話を伺った。民生委員・児童委員の方へ情報共有・相談をした。
- ・他市区町村の現状をリサーチした。
- ・市：環境対策課との情報交換の場を設けた。

③ 課題とまとめ

- ・まだ会えていない対象者へのアプローチ方法
- ・会えた時のアプローチ方法

現状として、まだ会えていない対象者に対してはお会いすることが最優先ではあるが、会うための方法ばかりではなく、会えた時の声掛けや、進め方等も検討しておくことが必要である。すでにお会いすることができた対象者に対しても同様なアプローチ方法を検討していくと同時に、片付けを承諾してくれた時の連携先の構築も、行政や地域と作っていくことが必要だと感じた。また、『ゴミ問題』とひとくくりにできない内容であり、ゴミを自宅に溜めてしまう背景には様々な要因があるので、医療・福祉・行政など、多様な分野との横断的な連携が必要だと実感する問題である。

▷事例 2 居場所づくり

□ 東部区域

《本町・南町八幡神社での居場所づくり》

① きっかけ

前年度ボランティア活動センターこくぶんじで企画実施した『Café ミーティング：居場所づくりについて話ませんか？』で、参加者より「2 歳児親子と高齢者を繋ぐ」「神社を活用」のキーワードがあがった。「まずは 1 回やってみましょう！」と声があがり、2 歳児親子と高齢者の異世代交流の場づくり「神社で春を楽しもう」の開催となった。

② これまでの流れと経過

□ 前年度から引き継いだ『神社で春を楽しもう』

桜が満開で気候が良かったこともあり、多くの参加があった。協力者からの後押しもあり、「次もすぐにやろう」ということで、第 2 回目へとつながった。

□ 第 2 回目を開催『神社であそぼう』

乳幼児親子や高齢者の参加が少なく、地域で活動している地域の担い手の方の参加が多かった。本来のターゲットの参加者が少なかったことで、協力者が方向性に疑問を感じていた部分があり、できるだけ早い時期に協力者との話し合いが必要だと感じたため、反省会を実施した。

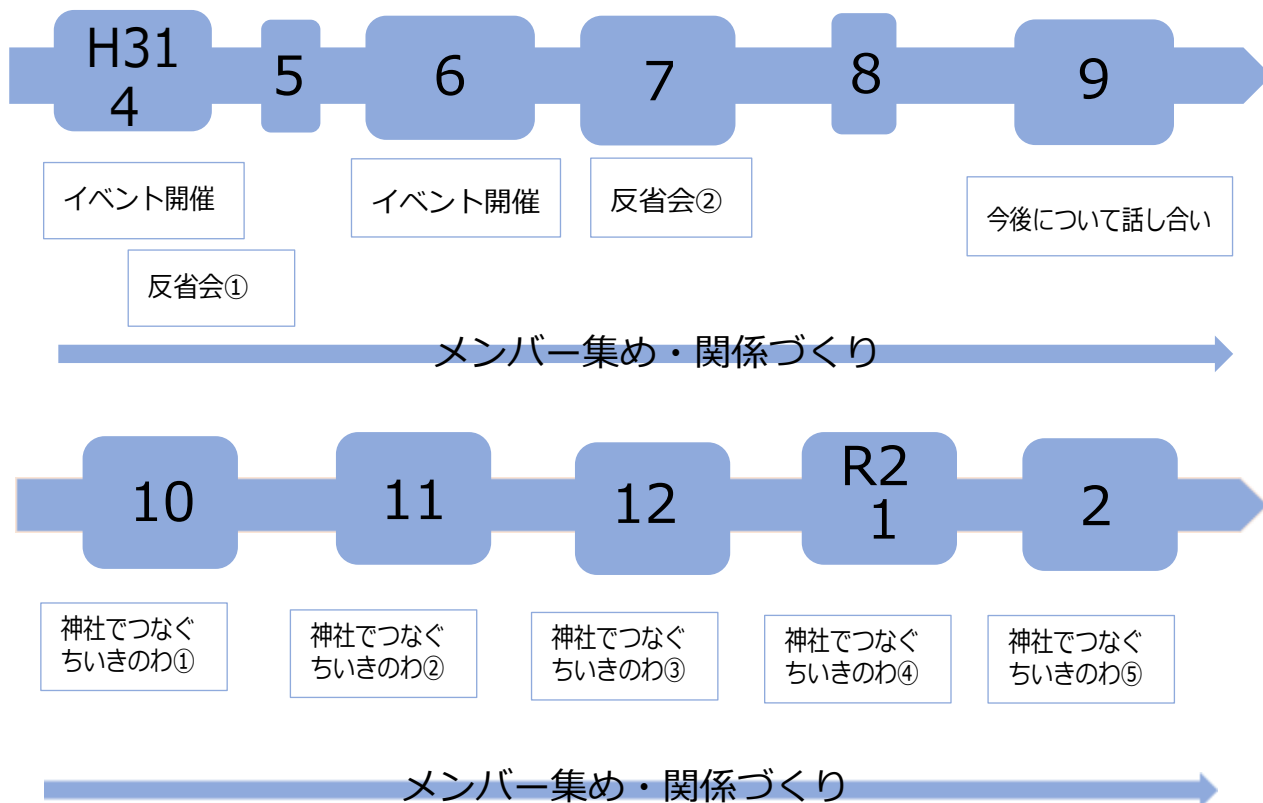
反省会：反省会と今後について話し合った。出席者からは、「今の時点では目的や対象者は限定せず、誰でも参加できる神社を中心としたイベントを定期的にやっていく」という意見が多かったが、出席できなかった方から事前に聞き取った意見では「当初考えていた対象者や方向性が違う」などといった意見があり、協力者の間でも温度差を感じた。そのため、このまま続けていくのではなく、もう一度多くの協力者が集まることのできる日程を設定し、話し合いの機会を設けることとした。

□ 居場所づくりの今後についての話し合い

改めて、「居場所づくり」の流れを地域の協力者と共有してから、今後のことについて話し合いを進めた。その上で協力者の思いを大切にしながら、できるだけ協力者全員の意向に沿ったものにしていきたいと思い、意見を出してもらった。実際に話を伺うと、それぞれに思いはあるものの、手伝いはできるが、中心となって動いていくことは難しいということがわかった。そのため、今すぐに方向性を決めていくのは難しいので、今後も話し合いを続けていく必要性を感じた。その時に「話し合いもイベントのひとつと考えてもいいんじゃないか」という声に後押しをされ、今後は、月 1 回のペースで神社に集まることとなった。

□ ここから新たに「神社でつなぐちいきのわ」スタート

支援の流れ



③課題とまとめ

イベントや話し合いを重ねてきたが、現状では中心となって活動できるメンバーがいなかったことが分かった。今は協力者が楽しみながら活動に参加することで、参加者だけでなく協力者にとっての居場所となることも大切だと感じた。今後も定期的な開催していく中で、どのような居場所にしていきたいかを模索しながら、より地域住民が主体となるような居場所づくりを支援していきたい。

▷事例 3 新たな居場所づくりに向けて

□西部区域

《日吉町・西恋ヶ窪周辺での居場所づくり》

① きっかけ

懇談の場で民生委員・児童委員の方から、「自分の担当地区に新道路ができたことにより閉鎖的になっていることや、実施しているサロンなども行きにくい現状があるため、この地区で居場所が作れたらと思っている」というお話を伺う。同時期に防災会の「街歩き」に参加した際に、その地区の小学校 PTA 会長に声をかけたところ、興味を持っていただいた。それ以外でも「未就学時とママ達の集まる場所がほしい」「子ども食堂をやりたいが、近くの公民館には調理スペースがない」など、「場所がほしい」という声が集まり話し合いの場を設けた。

② これまでの流れと経過

▷12 月に民生委員・児童委員数名の方と話し合いをする。この時点では、今後の方針などは未定。『やりたい』の声は集まっているが、『あったらいいな』がわからないため、まずはこの周辺でアンケートを取って地域ニーズをリサーチすることから始めてみましょうという話で終了となる。

▷2 月に 2 回目の集まりを予定していたが、「3 月 24 日に実施する懇談の場で話をしましょう」ということで協力者には伝えたが、3 月 24 日のイベントが中止になったため動きが止まっている状態。

③ 課題とまとめ

昨年の後半に話し合いがスタートしたため、新型コロナウイルスの影響で話し合いの場を設けることができずにいるが、次年度の方向性としては、まずは「あったらいいな」をリサーチすること。それと同時に協力者が考える多機能な居場所のイメージの共有や場所の確保など、日吉町・西恋ヶ窪周辺の居場所づくりの支援を進めていきたい。

11.課題と今後の展望

(1) 地域課題の把握についての取り組み

今年度より地域福祉コーディネーターが配置され、活動をしてきたことで、潜在化した課題が少しずつ見えてくるようになった。

地域会議や懇談会、学校の安全連絡会等に参加をすることで、様々な課題や地域の声を聞くことができた一方で、地域会議がない地域や関わりの少ない地域・学校等があることもわかった。今後はそのような地域にも積極的にアプローチをしていくことで、更なる地域課題の把握について取り組んでいく必要がある。

(2) 多機能な居場所づくり

近所づきあいや地域のコミュニティの希薄化が進んでいる昨今、地域共生社会の実現に向け誰でも利用できる多機能な居場所づくりが必要である。

高齢者世帯や一人暮らしの高齢者の割合が多く、核家族も多くなっていることもあり孤立化が進んでいる。また、障害のある方やひきこもりの方の居場所や、共働きの世帯が増えていることで、学童保育所が終わる小学4年生からの居場所なども困りごとの声として聞こえてくる。普段から顔の見える関係を作っておくことで、困った時に「助けて」と言える場、間接的に課題の発見やゆるやかな見守りの場として、今後重要な拠点となる居場所の実現に向けた取り組みを進めていく。

(3) 多機関、多職種連携と仕組みづくり

個別相談・地域相談には様々な背景があり、複合的な問題や制度の狭間の問題も多くなっている。「ゴミ」、「ペット」、「高齢者」、「認知症」、「都営」、「独居」、「障害」等、複合的な課題となって表面化し相談が入るといったケースも少なくはない。そこまでに至る前の気づきや支援の必要性はもちろんのこと、問題解決を目指すために多機関、多職種連携による仕組みづくりを進める必要がある。また、地域支援の中には、防災や自治会に関する相談もあり、地域に合わせた仕組みづくりをすることで地域のコミュニティが広がることも期待される。

12.総評

令和元年度の活動成果及び今後の活動に向けて

武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科

教授 熊田 博喜

国分寺市社会福祉協議会では、2019 年度から東地区・西地区の 2 カ所に地域福祉コーディネーター 2 名を配置し、第一層の生活支援コーディネーター及び国分寺市健康部地域共生推進課との連携を基に活動を開始している。

以下、本年度の活動成果及び今後の活動に向けて若干のコメントを行いたい。

地域福祉コーディネーターとは、いわゆる「制度の狭間」といわれる「複合的な不利を抱えているがゆえに様々な地域・社会とのつながりが断ち切れた人々の抱えるニーズに対応することと併せて、またそのような人を生まないような地域社会づくりを行う専門職及び制度の総称」である。つまり地域福祉コーディネーターには、「制度の狭間」のニーズを抱えた人々を支援する「個別支援」と「地域社会づくり」を行う「地域支援」という 2 つの機能があるが、国分寺市の地域福祉コーディネーターの活動にはどのような特徴があるだろうか。

「令和元年度地域福祉コーディネーター活動記録」では、東地区では「居場所づくり」「個別支援」「ゴミ問題」、西地区では「学校関係」「居場所づくり」「個別支援」が活動内容の上位を占めている。このことから東地区・西地区の地域特性が反映されているにせよ、地域福祉コーディネーターの本来的な機能である「個別支援」と併せて「居場所づくり」といった「地域支援」という 2 つの機能が発揮される結果となっており、初年度からその役割を本格的に果たしつつあるといえる。

またこのような特徴を踏まえ、いくつか 2020 年度に向けてポイントとなる点を挙げておきたい。

まず一点目として、今回、東・西地区同様に「ゴミ問題」が上位となっている。「ゴミ問題」そのものは、今までどの機関・部署も取り上げることが難しかった課題である「制度の狭間」の一つであるといえるが、制度の狭間であるからこそ、国分寺市内の各福祉専門機関はもとより、民生委員、地域住民、更に福祉以外の専門機関である学校や公民館、更には商店など民間企業・団体など様々な関係機関・団体と連携が不可欠となる。また地域福祉コーディネーターがそのような関係機関と日常的な連携・ネットワークづくりを進めることは言うまでもないが、一方で地域福祉コーディネーターの責任管轄である国分寺市が更にこのような複雑な問題に対応できる連携システムを強固にして、地域福祉コーディネーターを支える体制づくりも併せて重要となろう。

二点目として、このような「ゴミ問題」のような課題は、それが表面化し、問題として認識される前の予防的な取り組みが重要となる。そのためには地域で孤立しがちな住民を発見したり、見守ったり、更には支える等の取り組みが不可欠である。地域福祉コーディネーターは、「居場所づくり」といった住民主体の福祉活動を積極的に支援し、「居場所」「見守り」といった問題解決の仕掛けをしっかりと住民と共に整備し、2020 年度も取り組みを進めることが求められる。

その際、国分寺市には自治会・町内会を基盤とした「ここねっと」が地域内に組織化され、そのような取り組みとは十分に連携を取りつつ進められているが、更に NPO や商店など課題ベースの住民団体とも今後、関係を深めて地域づくりを進めることを期待したい。このような各種地域の主体との「信頼関係づくり」が住民課題を早期に発見したり、困っている住民に関わる足掛かりになると共に、つながりを再構築する契機になると考える。

三点目として、「ゴミ問題」に象徴されるようにこのような多問題ケースは、一朝一夕に解決が困難な課題であり、長期的なアプローチと対応が求められる。そのため現場の職員が疲弊しないような支援や仕組みづくりも求められる。

そして四点目として、「記録」の付け方や活用の方法の検討である。都内で地域福祉コーディネーターの実践を進める自治体の多くでは記録を付け、それを活用することが行われている。特に「記録」は、活動を振り返り成果や課題を析出する役割があると同時に、今まで取り組んだ実践をアーカイブし今後、生じるであろう課題の解決の足掛かりを得る意味でも重要である。今後、地域福祉コーディネーターに有益でかつ合理的な「国分寺」らしい記録の付け方や活用方法を検討する必要もあろう。

総じて 2019 年度、国分寺市地域福祉コーディネーター配置事業は、2 名のワーカーの努力もあって 1 年目の事業にあっては十二分の成果を得ることができたと考える。とはいえそれがワーカーの個人的努力のみに帰することがないよう仕組みとして構築すると共に、ワーカーもさらに地域の社会資源や住民とつながり、信頼関係を醸成することを期待したい。



社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会

まちづくり支援係 地域福祉コーディネーター

住所：国分寺市東元町 3-17-2

TEL：042-300-6363 FAX：042-300-6365

【発行】令和2年9月

